

令和6年度 外部評価シート

施設名	有馬富士公園	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県園芸・公園協会	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価 (対象期間：令和3年～5年)

評価項目	評価
維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 本公園は、里山をはじめ、棚田、湿地等を保全し、大規模な子供の遊び場「あそびの王国」や、風のモニュメントを展示する「風のミュージアム」等があり、貴重な動植物等豊かな自然環境と子供から大人まで楽しめる施設等を有している。平成13年の開園以降、公園施設の老朽化が進む中、限られた予算の中で設備不備に起因する事故がないように着実に点検を実施されている。 ● 公園設備に関しては日常・定期点検はもとより、連休前の遊具点検も追加で行うなど、事故防止を心掛けた適正な施設保守管理ができていた。 ● 植栽管理に関しては利用実態や生育状況に合わせて実施しており、特に芝刈りや除草については計画値を大幅に上回る面積の管理を行っていた。 ● 清掃も適宜行われており、特に主要なトイレなどは計画では1回/日のところを約2回/日行う等、利用状況に合わせた清潔な状態が保つことができていた。 ● 利用者満足度調査では例年97%以上がまた利用したいと回答していることから、自然の景観が魅力である当公園の維持管理について適切に行われているといえる。
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 本公園は「県立人と自然の博物館」と連携し、参画と協働による公園運営に取り組んでおり、「ありまふじ夢プログラム」をはじめとした住民参加型のイベント等を実施している。 ● 新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、令和3・4年度は中止にせざるを得ないイベントが多かったが、「子育て応援プロジェクト」「ひょうごヘルシーパークプロジェクト」「夢プログラム」等の一定のプログラムは回数を減らしながらも継続して実施できており、令和5年度からは大きなイベントである春秋の「ありまふじフェスティバル」も再開している。その中でも自然の中で親子が自然を満喫できる活動を行う「森の子育て広場」をはじめ、子育て応援のリサイクルマーケットや子育て世代へのふるさと伝承事業、子育てサポート事業などの「子育て応援プロジェクト」について、公募時の提案では年2回実施することを目標としていたが、令和3年度は8回、令和5年度では25回実施しており、目標を大幅に上回っている。また、ノルディックウォーキングフェスタやエクササイズ、ヨガ教室、リレーマラソンなど健康づくり活動のきっかけとなる「ひょうごヘルシーパークプロジェクト」についても、公募時の提案では年2回実施することを目標としていたが、令和3年度は60回、令和5年度は70回実施しており、目標を大幅に上回っている。 ● 日常利用に関しては年末年始の休業期間にも駐車場利用を可能にしたこと、また、夏休み期間の周辺施設と連携した利用時間延長に合わせ、職員による窓口・電話の対応時間も延長したことにより、総合的な来園者サービスの向上が図られた。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 公募時に提案した目標年間来園者数(年間80万人)に対して、年度別来園者数は、令和3年度は82万人、令和4年度は79.6万人、令和5年度は79.5万人となっている。 ● 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、各地の施設閉鎖やイベントの中止などがあり、人の密集しない広い空間に対する需要にマッチし来園者数が増加しているが、その他の年度は目標値に近い来園者数となっている。

収支状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 光熱水費の高騰が収支を圧迫しているが、外部委託を最小限にとどめる等経費削減に努めている。
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 事故の未然防止に重点を置いた管理運営を行った結果、管理不備に起因する事故はなく、適切な施設管理が行えていた。新型コロナウイルス感染症拡大対策にも県と連携して対応できていた。 ● また、人と自然の博物館、県立大学や自然学習センター、共生センターなどの連携施設が実施する事業に対しては、会場や資材、人材の提供など多様な協力、支援を行っており、公園の管理運営協議会では公園の利活用について各種協議を行った。 ● 情報発信についてはアンケートの評価が高く、実績数としてもホームページでの発信が多く見受けられた。
その他	—

2 残りの指定期間における改善点

<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症拡大対策の行動制限が無くなったことにより、人々の出かける先が公園以外にも増えたことから、当面は施設利用者数も横ばいの状態が続くものと思われる。そうした中、本公園では参画と協働による公園運営を目指していることから、指定管理者以外の者によるイベント実施をこれまで以上に促進するなどして、公園の魅力を高めていただきたい。 ● また、光熱水費の高止まりなど収支見込みは厳しい状況であるが、引き続き経費削減に努めながら、適切な安全管理を行い、事故等の未然防止に努めていただきたい。
--

3 次期公募に向けた検討課題等

<ul style="list-style-type: none"> ● 本公園では、有馬富士と福島大池、青野ダムの湖水域など多種多様な自然環境を保全し、また、多様化するレクリエーション需要に応えるため「みんなで作るふるさと公園」をテーマに、県、市、関係機関が連携し、県民とのパートナーシップによる公園運営を行うこととしている。指定管理者は本公園の設置目的を理解したうえで、多種多様な自然環境を維持できている、レクリエーションに関しても指定管理者が主催する「子育て応援プロジェクト」「ひょうごヘルシーパークプロジェクト」や、「夢プログラム」等の住民参画型のイベントを、関係機関と連携し実施できていると評価する。 ● 維持管理全般においては、事故等もなく適切な維持管理を実施しており、住民参画型イベントに関しても新型コロナウイルス感染症拡大対策の中で積極的に取り組んでいたと評価する。 ● 参画と協働に関しては、さらなる取り組みとして指定管理者以外が主催となるイベントを外部から呼び込むことや、そのための条件整理を県と協議するなど、引き続き努力を期待する。 ● また、ホームページの内容と情報発信量は充実しているものの、ページ構成が新鮮味に欠けており、情報発信しているSNSの数も限られているように見受けられることから、利用者層も考慮した情報発信に向け引き続き留意されたい。
--

(参考) 県立都市公園指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職	備考
平田 富士男	兵庫県立淡路景観園芸学校 兵庫県立大学大学院教授	委員長
赤澤 宏樹	兵庫県立大学教授	
宇田 名保美	中小企業診断士	
松田 竜一	兵庫県まちづくり部次長	
山下 紗矢佳	武庫川女子大学准教授	